

畜産 FAX 情報 第3号

令和7年 6月 15日

発行:ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

本年のチモシー主体の草地は「出穂始:6月9日、出穂期:6月13日」と平年並みに推移しています。良質な粗飼料確保のため、生育状況に応じた収穫作業を行いましょう。

1.条件に合わせた添加剤の活用

- (1) **乳酸菌**:乳酸菌が働きやすい環境を整えるため、原料草を予乾して乾物率30%前後に調製しましょう。
- (2) **ギ酸**:天候が優れず収穫せざるを得ない場合など、原料草の乾物が25%以下の場合は、ギ酸を選択して pH を下げ、不良発酵を抑制させることを推奨します。原料草を搾汁し、pH 試験紙や pH メーターで pH3.8 になるよう添加量を調整しましょう。

2.一番草の収穫後の追肥について

チモシーの再生を促し夏枯れを予防するため、チモシー主体草地では一番草刈取後およそ10日目を目安に追肥を行いましょう。一方、スラリーを散布する場合は、新しく分けつする茎をつぶさないよう、可能な限り早く散布しましょう。

3.ガガイモの発生が例年よりも増加しています

ほ場外周でガガイモが伸びています。ガガイモを枯死させる方法は、まだ見つかっていません。

今できる対策としてはまず、ほ場内部に侵入させないため、発生が多い箇所は外周の草刈りをおすすめします。

次に、とうもろこしの収穫ができるようガガイモの生育を停滞させ、ほ場に種を落とさせないことが重要です。ガガイモの芽が出そろってから防除するため、飼料用とうもろこし7葉期まで使用可能なアルファード液剤もしくはブルーシアフロアブルを活用しましょう。



図 ガガイモ

**収穫期は農作業事故が発生しやすい季節です。
こまめな休憩と水分補給を心がけ、
余裕をもって作業を行いましょう！**